

第二テモテ 4:6 - 8

「良い戦い」

序論

MB 信仰告白 = 聖書の民、宣教の民、平和の民

本論

パウロがテモテに一番伝えたかったこと

- ・主から義の栄冠を受けるべく、戦い続けてきた、走り続けてきた、そして信仰を守り通した
- ・あなたも神のために生きて、あなたの職務をまっとうしてほしい

主にある戦いというのは

- ・戦い続けていくもの
- ・クリスチャンには戦いがある

パウロにとっての戦い

- ・4章の1節、2節のこと
- 「神の御前で、また生きている人と死んだ人とをさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現れとその御国を思いながら、私は厳かに命じます。みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」
- ・テモテに伝えた遺言のようなもの

この世は、良い世の中であるとは見ていなかった

- ・ますます真理からそれていく時代になる
- ・み言葉を宣べ伝えるという戦いをしていく時、罪との戦いがある

私たちが身を置く時代は、パウロの生きた時代よりはるかに進んだ時代

- ・み言葉を語り続けていくという戦いは、苦難の伴うこと
- ・召された者として、それぞれに走るべき道のりがある

7節の最後「信仰を守り通した」

- ・パウロは主に対して徹底的に献身して、従い抜いた
- ・全てのクリスチャンに対して聖書は絶えず献身を語っている
- 「あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから、自分のからだをもって神の栄光を現わしなさい。」(I コリ 6:19, 29)

パウロは、戦いのゴールを見失っていなかった

- ・受ける義の栄冠について語った
- ・主の現れ(再臨)を慕い求めている人すべてに授けられる祝福

結論

私たちはそれぞれにこの世を去る時まで、あるいはイエス様が来られる時まで、良い戦いを戦ってほしいそして共に義の栄冠の祝福に与かりたい